

令和4年度 ユマニテク医療福祉大学校学校関係者評価委員会議事録

日時 2023年3月16日(木) 15時～16時20分

場所 本校 会議室

出席者

【学校関係者評価委員】

関係団体 三重県社会福祉協議会 事務局次長 明石 典男 様

関係団体 三重大学高等教育デザイン・推進機構／

医学部医学・看護学教育センター(兼)教授 太城 康良 様

関係企業・卒業生 三重厚生連三重北医療センター 作業療法室 伊藤 正敏 様

関係団体 三重県介護福祉会 副会長 甲斐 義典 様

関係企業・卒業生 三重厚生連三重北医療センター 作業療法室 伊藤 正敏 様

地域住民 塩浜地区連合自治会 塩浜本町2丁目自治会長 谷崎 知文 様

【学校側】

校長 小出 益徳

理学療法学科長 田中 宏明 作業療法学科長 山崎 治行

歯科衛生学科長 北川 順子 介護福祉学科長 伊藤 幾代

事務長(書記) 東松 恵子

1 挨拶

2 出席者自己紹介

3 委員長の選出

事務局からの提案により太城委員を委員長に選出した。

4 学校概要説明

校長より資料に基づいて学校概要の説明をした。

5 学校自己評価結果について

・学校自己評価結果の(1)教育理念・目標(2)学校運営(9)法令等の遵守(10)社会貢献・地域貢献について資料に基づき校長より説明を行った。

・(3)教育活動(4)学習成果(5)学生支援(6)教育環境について各学科長より追加説明した。

理学療法学科:カリキュラムマップを作成したが、誰でもわかるような説明や補足する媒体を作製する。

4ヵ年計画で設備の入れ替え、新規導入をしてきた最終年であるが、今後、さらに中長期で整備をすすめる。保護者を再開し、連携を図っていく予定(田中学科長)。

作業療法学科:理学療法士作業療法士専任教員養成講習会に2名が参加し、これに基に次年度授業に反映させていきたい。理学療法学科と同様に指定規則改訂に伴う4ヵ年整備の最終年であった。退学率が高い原因を分析し、2番目に多い原因として職業理解が不十分であることが3年制に移行し顕著となった。基礎学力の底上げと共に対応していく。スクールカウンセリングでの対応事例では、医療機関と連携を図る(山崎学科長)。

歯科衛生学科：歯科医療界のデジタル化に即した教育に関して教育器材等の整備が必要である。国家試験 100%を継続している。6 年連続で退学率 5%未満を続けている。教育訓練給付金や独自の奨学金等の社会人向けの奨学金を整備した。経年劣化している備品もあり今後整備が必要である（北川学科長）。

介護福祉学科：地域保健、介護予防、チームマネジメント力、認知症の理解等のカリキュラム変更を行っている。現場の ICT 化や他校と連携した福祉美容にも対応する。同窓会の活動も再開するため、連携していく。介護福祉士養成施設連絡協議会主催の研修会にも教員は参加した。認定介護福祉士の取得に向けて研鑽を続ける。学生の構成は留学生、現役、社会人と多様性となっている（伊藤幾学科長）。

・（7）学生の受け入れ・募集、（8）財務について事務長より説明した。

学生募集に関しては社会人説明会を開催し社会人募集も積極的に行った。理学療法学科、作業療法学科では、職業理解に力点を置いた「一緒にチャレンジ」を企画した。

建築後 20 年以上経過し経年劣化している部分もあり、対応が遅れている部分もあるが対応をすすめたい（東松事務長）。

6 学校関係者評価委員による評価

明石）スクールカウンセリングの相談件数が多いとのことだが、具体的にはどうなのか。

山崎）個人情報に関わる内容もあるが、コロナ渦の影響もある。

甲斐）ロードマップとの説明があったが具体的にはどういうことか。

小出）介護福祉士が社会福祉士を取得する等の例があるように、大学（編入、通信を利用）や大学院への進学率を指す。

伊藤正）接続教育から卒後教育ということだが、実習の遂行状況等の現状やそれぞれの課題はどうなのか。

田中）学内実習をせずに乗り切ってきた。しかし、内容は薄いものであった。卒後教育として考えているのは接遇・マナーである。基礎的な内容にとどまり、臨床的な内容まで届いていない現状もある。Instagram に投稿する内容では基礎的情報に重点をおきたい。卒後勉強会として非公式だがエコーの勉強会も行った。

谷崎）地域との関わりで 5 月末に地域清掃、10 月に避難訓練、文化祭を自治会及び連合自治会として計画している。今後学生にも参加していただけるのか。

小出）今後、可能か限り積極的に参加していきたい。

伊藤正）学生確保の観点での努力はどうされているのか。

東松）大学は体験が少なく、本校は体験に力点を置いている。しっかり体験を通して職業理解に努める。

7 意見交換

太城）学校として非常に努力されていると感じた。近年は SNS の危険性の周知も重要であるが、逆に有効活用している教育機関もあると聞く。つまり、学生に自分の困ったことをつぶやいてもらい、卒業生や非常勤講師、内部教員が返答する形もあるようです。参考になれば幸いです。

8 その他・連絡

特になし